

【事例紹介】

創価大学におけるキャリア教育と 外国人留学生へのキャリア支援 -未来を切り拓くキャリアセンターの取り組み-

Career Education and Career Support for International Students at Soka University: Initiatives for Supporting Students Future

創価大学キャリアセンター

(Career Center, Soka University)

キーワード：外国人留学生、キャリア教育、キャリア支援

1. はじめに

経済社会のグローバル化が激しさを増すなか、これまで文部科学省の高等教育機関の国際化を推進する主な取り組みとして、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」（2009）¹、「大学の世界展開力強化事業」（2011）、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」（2012）（以下、「GGJ」）、「スーパーグローバル大学創成支援」（2014）（以下、「SGU」）が実施されている。日本の高等教育機関のグローバル化が進み、それを標榜する大学は、外国人留学生（以下、「留学生」）がもたらす多様性や日本人学生との異文化共生を重んじ、積極的な留学生の受け入れに取り組んでいるところである。

また、留学生の受け入れにあたっては、日本語教育、英語による授業及びそれを可能にする教職員の配置や、入学から卒業後を見据えたキャリアサポートなどの教育支援、そして奨学金、寮の整備をはじめとした様々な生活支援への対応を迫られている。今回、創価大学（以下、「本学」）におけるGGJ及びSGUに採択されて以降の加速度的な留学生の増加に伴う、この3年間の留学生に対するキャリア支援²について報告する。

¹ 文部科学省の4事業名に続くカッコ内は、当該事業開始年度を示す

² ここではキャリア教育や就職支援全般を含む広義の定義とする

2. 本学の概要

1971年4月2日に開学した本学は、創立者・池田大作先生の示された建学の精神及び指針を掲げ、創造的人間の育成に取り組んでおり、2021年には創立50周年を迎える。

【建学の精神】

- 一、人間教育の最高学府たれ
- 一、新しき大文化建設の揺籃たれ
- 一、人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ

【指針】

英知を磨くは何のため 君よ それを忘るるな
 労苦と使命の中にのみ 人生の価値（たから）は生まれる

本学は、経済・法・文学部の3学部で開学した。現在、英語での授業のみで卒業可能な English Medium Program（以下、「EMP」）³の国際教養学部を含め、経済・経営・法・文・教育・理工・看護学部の8学部体制となっている。また5研究科を擁する大学院及び2専門職大学院生をあわせて約7,700名の学生が在籍している。

本学の留学生の受け入れの歩みは、開学4年後の1975年に、戦後、中国から初めての国費留学生6名を迎えたことから始まっている。翌1976年には別科日本語研修課程⁴を設置し、当時、毎年10名程度の学部への入学を希望する留学生を受け入れた。現在では、海外交流校数は61か国・地域、215大学⁵となっており、交換留学生や短期日本語研修の受け入れもあわせると、2018年度は年間860名を超える留学生が本学で学んでいる。

3. キャリアセンターとキャリア教育

文部科学省のキャリア教育の義務化に先駆け、本学は2004年9月に、それまで民間企業就職を中心に進路支援を行っていた就職部を発展的に解消し、キャリアセンターを新設した。その際、キャリアセンターでは下記のビジョンを掲げ、今日まで学生のサポートにあたっている。

³ English Medium Program HP: https://www.soka.ac.jp/en/academics/english_program/

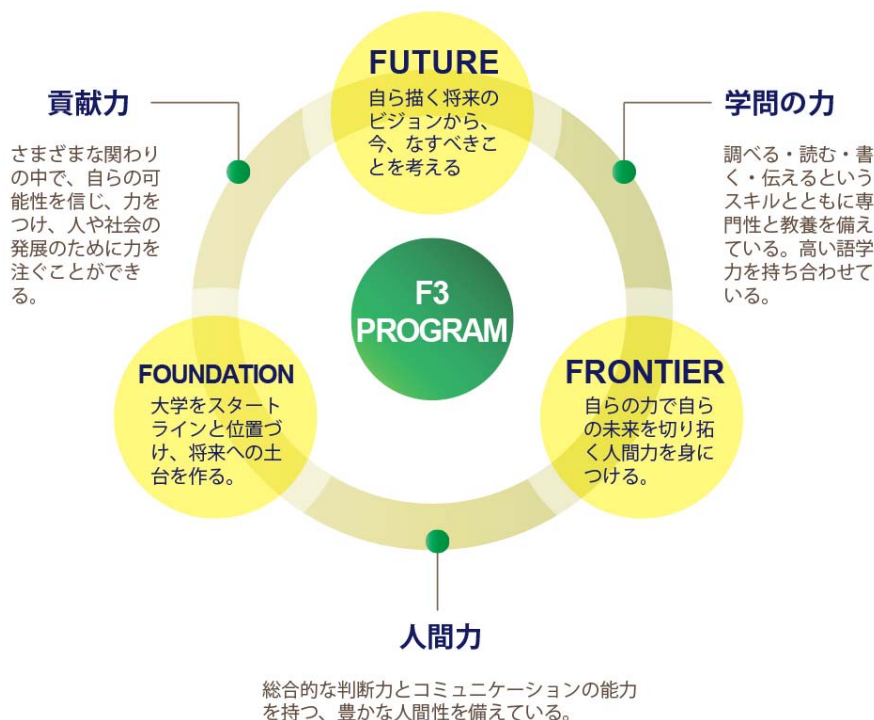
⁴ 現在は日本語・日本文化教育センターが別科日本語研修課程を運営

⁵ 2019年6月現在

【ビジョン】

- 一、自分の未来を切り拓く人材を育成するキャリアセンター
- 一、社会に貢献し、職場に“なくてはならない人材”を育成するキャリアセンター
- 一、母校の発展を願い、“創大スピリット”あふれる人材を育成するキャリアセンター

あわせて、このビジョンを具現化するためのキャリア形成プログラムとして、学生一人ひとりが、「自分の未来（Self-Future）を、自分の力で切り拓く力をつけ（Self-Frontier）、自身の基盤を築く（Self-Foundation）」ことを目的に、「F3プログラム」と名付けた取り組みを開始した。このプログラムは改善を加えながら今も続いている。



キャリアセンターの開設当時は、先述のビジョンやプログラムに基づき、1、2年生を対象にキャリア意識向上に向けて、様々なイベントや講座を開催した。当時のイベントと講座は正課外で行っていたため、クラブやアルバイト等との兼ね合いで参加が難しい学生もいた。このような背景から、徐々に正課内の授業でキャリア教育を実施するようにした。現在は、それらが「キャリア科目」と総称されるようになり、多くの学生が履修している。以下、その一部を紹介する。

(1) 「キャリア開発フォーラム」(春学期⁶開講・履修対象：1、2年生)

社会で活躍する卒業生を、仕事理解や大学生活の過ごし方のロールモデルとして紹介し、学生が自身の将来のキャリアを考え、その実現に向けて大学生活をデザインすることを学ぶ。

(2) 「ワールドビジネスフォーラム」(春学期開講・履修対象：1、2年生)

世界を舞台に活躍する卒業生がその魅力を紹介し、海外留学や海外での仕事に興味関心のある学生の大学生活をデザインすることを学ぶ。

(3) 「キャリアデザイン基礎」(秋学期開講・履修対象：1年生)

“なりたい自分”を考えるために「自分」「社会」「仕事」を知ることがテーマに、一人ひとりが学生生活をデザインすることを目的としている。

(4) キャリアビジョンⅠ(秋学期開講・履修対象：3年生)

民間企業就職を考えている学生が就職活動に必要な準備やスキルを実践的に学び、自身の未来を自らが切り拓けるようにする。

本学のキャリア教育の特長は、教職員と進路が決定した学生が一体となって、新入生のキャリア意識を高め、その学生の進路決定までをサポートするところにある。具体的には、1年次秋学期の「キャリアデザイン基礎」で、進路が決まった4年生約40名⁷が、全履修者と1対1の面談を2回実施し、学生生活のデザインをサポートする。また3年次秋学期開講の「キャリアビジョンⅠ」では、進路が決定した4年生約60～120名⁸が全履修者との1対1の面談を2回実施し、就活生のキャリア支援を行う。このような先輩による支援を受けた学生は、自身の進路が決まった際には、自らが後輩のサポート役として卒業までの約半年間、キャリア支援にあたっている。こうした先輩が後輩のキャリア支援を行うサポートの好循環は、今年の9月で16年目を迎える。

4. 留学生のキャリア支援

本学では、GGJ及びSGUの取り組みにより、留学生受け入れ数は海外交流校からの交換留学生や短期日本語研修生を含め、GGJ事業開始後の2013年度の313名から、2017年度には833名と約2.6倍となった。今年度の学部・大学院に所属する留学生は約530名で、国籍別の比率は、中国32.5%、

⁶ 本学は春学期(4～7月)、秋学期(9～1月)の2セメスター制、90分/コマの全15回を開講

⁷ キャリアサポートスタッフ(CSS)の名称で活動

⁸ リクルートサポートスタッフ(RSS)の名称で活動

韓国 24.8%、その他の 39 か国・地域で 42.7%になる。また中国人留学生のうち約半数は、中国の大学との協定に基づく 3 年次編入生であり、双方の大学から学位が修得できるダブルディグリー制度に基づき留学している学生である。また、2018 年度に卒業した学部所属の留学生は 81 名で、日本での就職決定者は 22 名、母国での就職決定者 6 名、進学者 24 名、帰国後の就職及び大学院等の予定者で 29 名となっている。

2013 年当時、留学生のキャリア支援は本学の国際部が生活支援の一環で、外部講師を招いて就活課外講座として実施していた。その後、2016 年度に留学生の増加を受け、キャリアセンターが留学生のキャリア支援を担うことになり、留学生向けのキャリア科目新設の検討を始め、2017 年度から開講することになった。以下、キャリアセンターにおける各年度の取り組みを紹介する。

（１）2016 年度の取り組み

キャリアセンターに留学生の就職支援を担当する職員を 1 名増員し、留学生向けのキャリア科目の検討に入った。新設科目の検討にあたって、日本人学生に提供しているキャリア科目を参考に、留学生が日本の就職事情を理解したうえで、今後の自身の学生生活をキャリアデザインできるようにする科目の新設を決定した。また、日本社会への理解が浅い留学生が不得手と思われる企業の研究、就活マナーやビジネスマナーなどについて、ケースを通して学ぶとともに副次的にビジネス日本語も高める科目の開講も決定した。これらの科目の新設に向けて、各科目の担当を予定している講師が週 1 回、課外で講座を開講し、参加した留学生から授業内容やキャリア支援に関するニーズを把握することに努めた。

また、留学生の要望を踏まえ、2017 年度より夏季休暇期間に留学生向けにインターンシップの機会を提供することも決定した。春学期に日本の就職を概観する講義と企業や就活に関する知識及びビジネス日本語力を向上させ、その実践の場として、事前・事後研修も含めたインターンシップの構成にすることで、留学生が自身の将来について考えを深められる体制を整備した。

（２）2017 年度の取り組み

前年度の検討を受けて、春学期に留学生向けの新規キャリア科目として、以下の 4 科目を開講した。

【春学期】

① 「キャリアデザイン基礎」

配当年次：1～4 年次、推奨は 1、2 年次

目的：日本で働くことに興味がある、あるいは検討している留学生が、日本の独特な就活を理解することで、自身のキャリアデザインをより明確化することをサポートする

内容：留学生向けに日本の就活事情、自身の強みや弱みを含む自己分析等により、自己PR、学生時代に力を入れたことなどの作成方法を学ぶ

② 「留学生のためのキャリアコミュニケーションⅠ」

配当年次：1～4年次、対象は日本語能力試験1級レベル以上推奨

目的：企業研究などの個人ワークの成果をプレゼンテーションすることや就活におけるビジネスマナーのケースを扱うことで表現力の向上も図る

内容：留学生の関心のある企業研究を行い、その内容を発表する。また日本における就活時に必要なマナーを学び、副次的にビジネス日本語力も向上させる

【秋学期】

③ 「キャリアビジョンⅠ」

配当年次：3年次のみ

目的：留学生が日本の就職活動をより実践的に準備を進めることができるようにする

内容：日本の就職活動に必要な自己PR、学生時代に力を入れたことなどの作成方法やグループディスカッションなどを含めた実践的な面接対策まで行う

④ 「留学生のためのキャリアコミュニケーションⅡ」

配当年次：1～4年次、対象は日本語能力試験1級レベル以上推奨

目的：企業研究などの個人ワークの成果をプレゼンテーションすることや就活におけるビジネスマナーのケースを扱うことで表現力の向上も図る

内容：「留学生のためのキャリアコミュニケーションⅠ」の科目と連結し、春学期の学びを踏まえて就活やビジネスシーンにおけるマナーや応対の学習の他、ビジネス日本語の向上も図る

これらの取り組みに加えて、春学期の日本のビジネス社会の理解及び自身の就業力や日本語力の実力を測るためにインターンシップ（5日間以上、単位認定あり）の機会を夏季休暇中に提供した。あわせて、EMP生に対して、英語のみで体験できるインターンシップ（5日間以上、単位認定あり）も実施した。また授業履修者及びインターンシップ参加者全員との面談を実施し、留学生のニーズの把握に努めた。さらに、2018年度より、EMP生向けに「キャリアデザイン基礎」を英語で行うことを決定した。

（３）2018年度の取り組み

2年目を迎えた留学生向けキャリア科目は、前年度の各セメスター終了時に科目を担当する教員2名とキャリアセンターで協議会を持ち、授業内容を共有することで、双方の授業での重複部分を改善した。ただし、合計4科目にわたるキャリア科目をすべて履修できた学生は多くなく、次年度の課題となった。また、EMP生向けに上記の「キャリアデザイン基礎」を新規開講したが、日本での就職を希望する学生と母国やその他の国・地域での就職を希望する学生が混在しており、履修者にそった授業内容への改善が求められている。夏季インターンシップについては、昨年同様に日本語版と英語版の2つのプログラムを開催し、授業履修者及びインターンシップ参加者全員との面談も行った。

5. おわりに

本学の留学生へのキャリア支援について、キャリアセンターの取り組みを中心に概観した。国際部の主管で課外で実施していた留学生への支援がキャリアセンターに移管され、3年をかけて留学生向けの正課内のキャリア科目として5科目を実施するようになった。これらの科目の2018年度履修者は延べ100名を超えた。また、キャリアセンターの職員による同授業の履修者やインターンシップ参加者全員との面談や各学期の始めに開催するキャリアガイダンスでの周知により、留学生へのキャリア支援も少しずつ浸透し、2018年度にキャリアセンターで対応した留学生の相談件数は、延べ200回を超えるまでになった。その反面、国籍や個人の育ってきた環境が日本と明らかに異なる留学生にあって、内的・外的キャリア⁹も様々であり、以下のような傾向性や課題が見えてきた。

- ・自身の内的キャリアや価値観と仕事を結び付けて考えることが難しい
- ・日本語にかかわる仕事を重要視するあまり、外的キャリアが広がりづらい
- ・就職先や進学先の希望が日本と母国、その他の国・地域と多岐にわたり決めきれない
- ・学力が高いEMP生の日本語力不足による日本における就職難
- ・帰国後の就職を希望する留学生への就職支援不足

様々な課題は存在するが、面談による個々のサポートを重視し、留学生が実際に抱えるキャリアに関する悩みを授業改善やキャリア支援に生かしている。新たな取り組みとして、帰国後の就職を希望している学生向けに、すでに帰国して就職している卒業生の就職先と連絡先を卒業生の了解をもとに情報提供できるように準備を進めている。今後も、本学での学生生活を通して、留学生一人ひとりが未来を自分で切り拓くことができるキャリア支援に尽力していきたい。

⁹ ここでは、内的キャリアは仕事を選ぶうえで外せないキーワードや価値観のようなものであり、外的キャリアは内的キャリアを実現するための具体的な手段、仕事の内容と定義する